

# しまあるしえ

## ー尾道市百島を中心としたローリングストックによる日常向上計画ー

### 01. 背景・現状

広島県尾道市百島町は瀬戸内海にある離島である。

人口は355人（2024年11月30日現在）であり、年々高齢化と人口の減少が顕著である。

近年、空き家や閉校となった中学校を再利用した“アートベース百島”や、瀬戸内海を眺望できるグランピング施設、マリンスポーツなど、レジャーに特化した観光地化が進んでおり、一見活気を取り戻しつつある。

JA尾道市農業協同組合百島出張所が2023年3月25日に閉業、機能縮小後、島内には常時営業している日用品・食品の販売店舗等が無く、在庫不足時には宅配サービスや、船を利用して島外へ買いに行かなければならない。

スーパーマーケット等との応援協定による災害時の物資提供の対応においても時間がかかることが大きな課題である。

また、百島には避難所や水防倉庫はあるが、食料品などの専用の備蓄倉庫が無い。

島の拠点となり、恒常に災害に対する意識向上につながる計画を「しまあるしえ」と題して提案する。

### 02. 目的

本計画では、島民・観光客の島での拠点を作ることと同時に、日常生活の利便性を向上させること、災害に対する住民の自助力を高めることを目的とする。

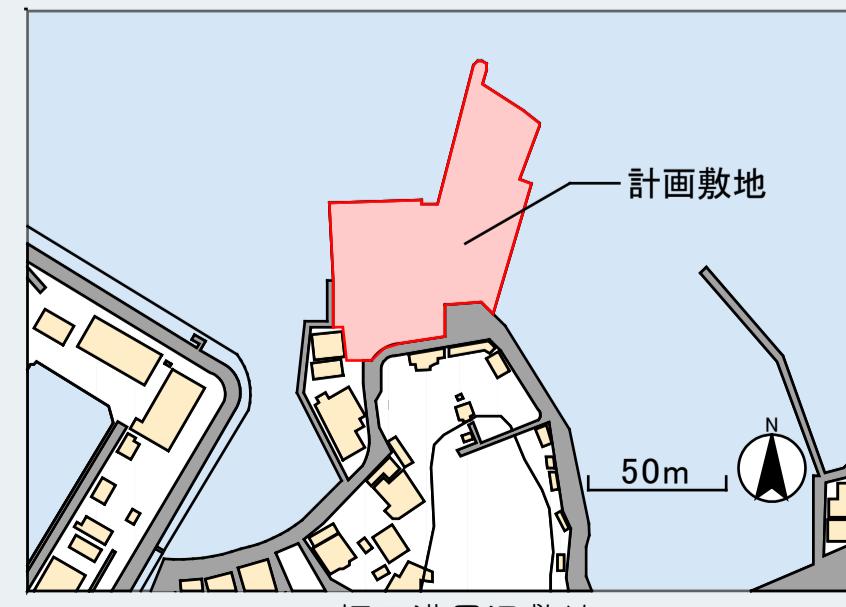
### 03. 計画敷地について

広島県尾道市百島町にある福田港周辺を計画敷地とする。

福田港は、常石港・尾道港行きの船が発着する百島唯一の玄関口であり、島へ訪れる人が必ず経由する地点である。

桟橋から島の外周を海沿いに延びる道路は道幅が広く、周辺には住宅と耕地が見られる。

福田港周辺はフェリーで渡る車や自転車が多く、島内で最も交通量がある場所である。



### 04. 計画内容

離島である百島において自助力を高めるために、基幹場所となる施設を計画する。

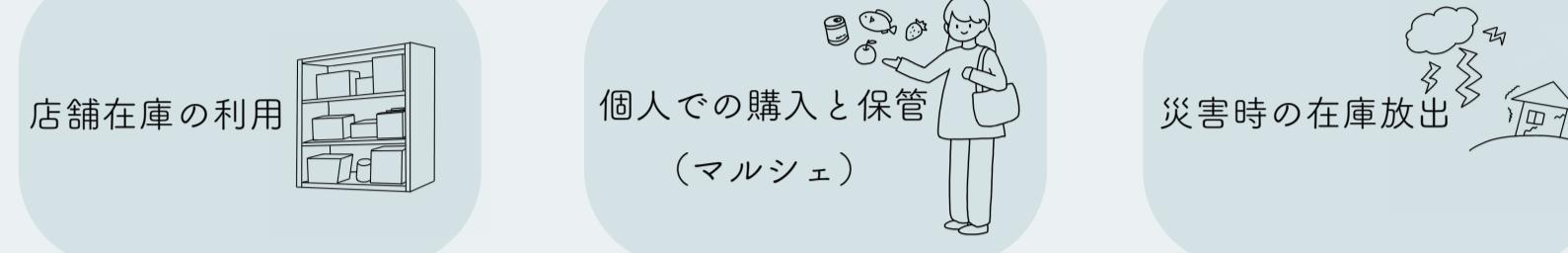
週に一度マルシェ等のイベントを開催。百島だけの取り組みではなく、近隣諸島（下図）の特産品を持ち寄り、**合同でマルシェを開催**することにより、瀬戸内の魅力の発信や島の認知につながると考える。

島を巡る人と物の流れが生まれ、島内全体でローリングストックの有効活用ができる。



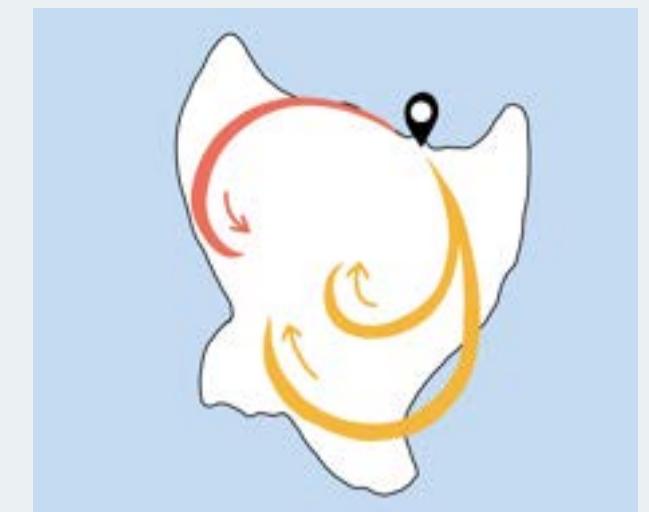
## 05. 計画方針

- 1) 船着き場と共用施設を複合したものとし、島内の交流の拠点となるよう計画する。
- 2) 日常における買い物の負担軽減。  
随時マルシェ等を開催し、瀬戸内海の島々との交流ができるようになる。
- 3) 陸上、海上の交通の利便性の向上。
- 4) 災害発生時に備え、店舗の在庫を利用したローリングストックを行う。
- 5) 高潮や津波時の低層階の被災は沿岸部故に免れないが、災害時に施設内の基本機能が無事な際に利用するため、常時地域との連携や情報共有を行う。
- 6) 今後の利用状況や需要に応じ、百島近隣諸島においても同じ形式で施設を計画する。

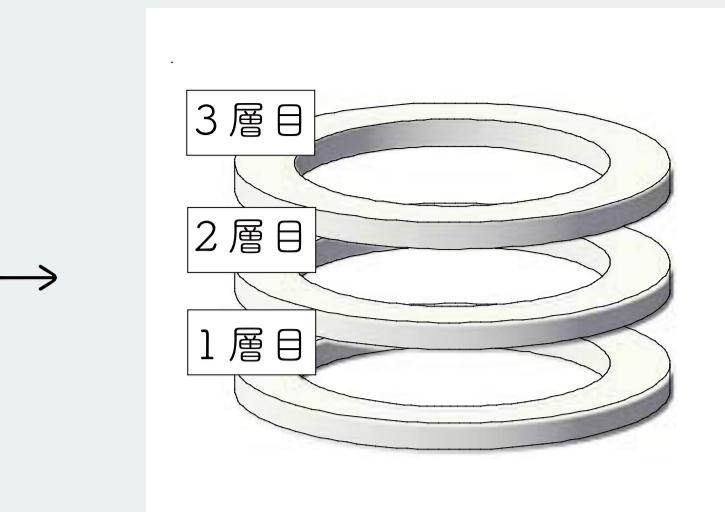


福田港周辺 (2024.5.4 撮影)

## 06. ダイアグラム



島内の主な移動経路を可視化  
桟橋から島全体に円を描くように  
複数の曲線で示すことができた。



島全体の移動をイメージし、  
曲線で示した人の流れを積層する。

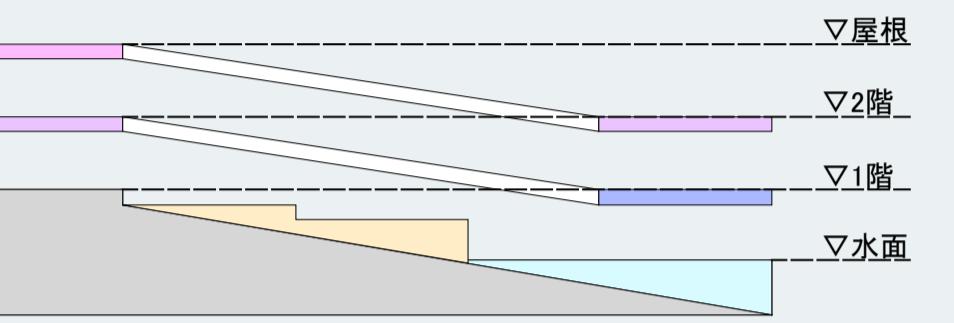


積層したものを螺旋状に変形  
ぐるりと歩き、  
島全体を見渡せるような形に。

全体的に複数の層を有するつくりとし、層によって異なる機能・利用方法を計画する。

層をスロープで接続することで、層を意識させない建築を目指す。

1階部分と水面の境界を曖昧にするために段差状のデッキを配置。  
1階FLから2階屋上までを螺旋状に繋ぎ、  
行き止まりを感じさせない開かれた印象にした。

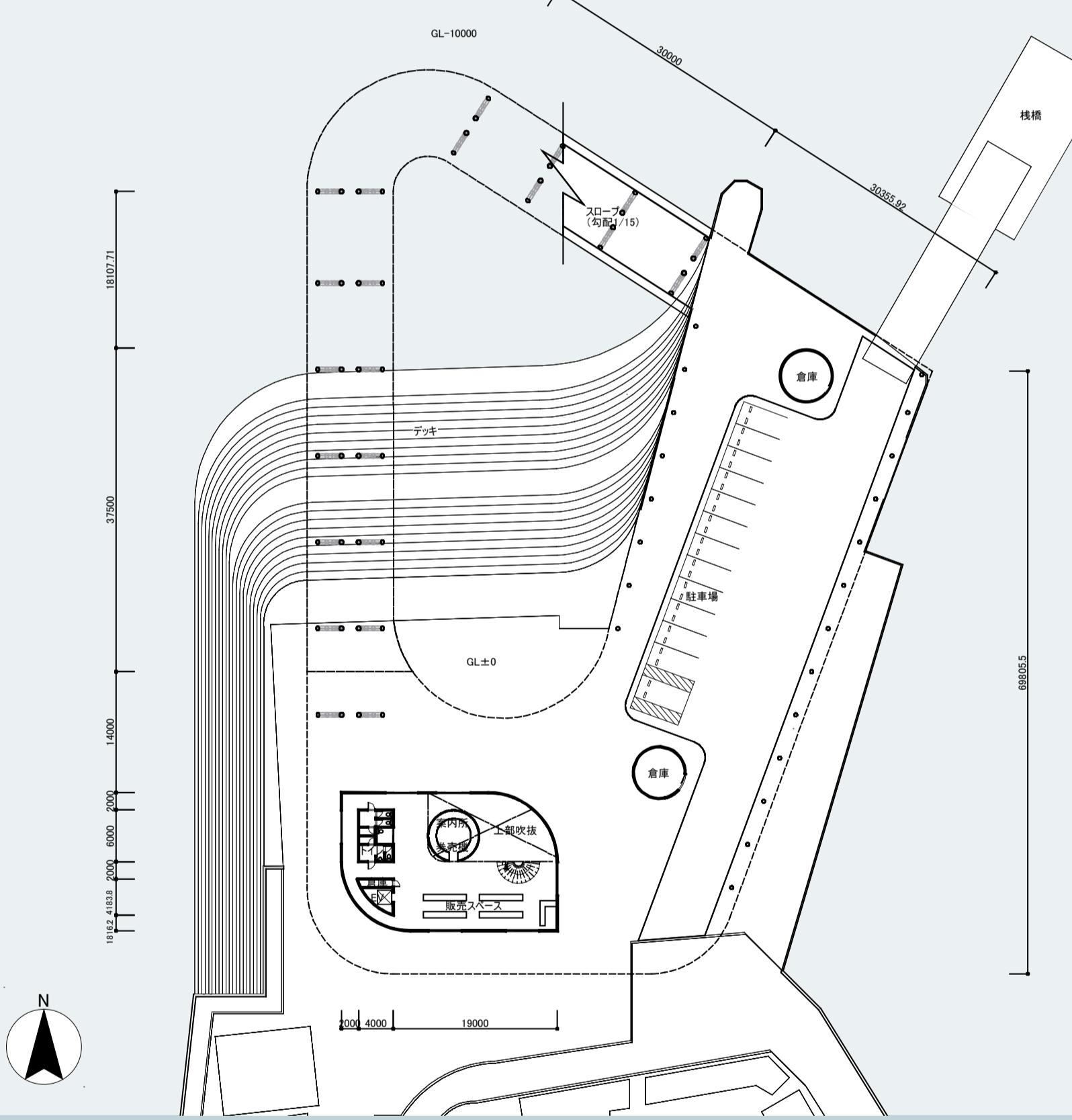


下船後桟橋を通過し島内へ  
桟橋から直進し、駐車場や  
乗船車両待機場所を進むと  
道路へ辿り着く。  
ここを経由して目的地へ向  
かう、新たな玄関口となる。

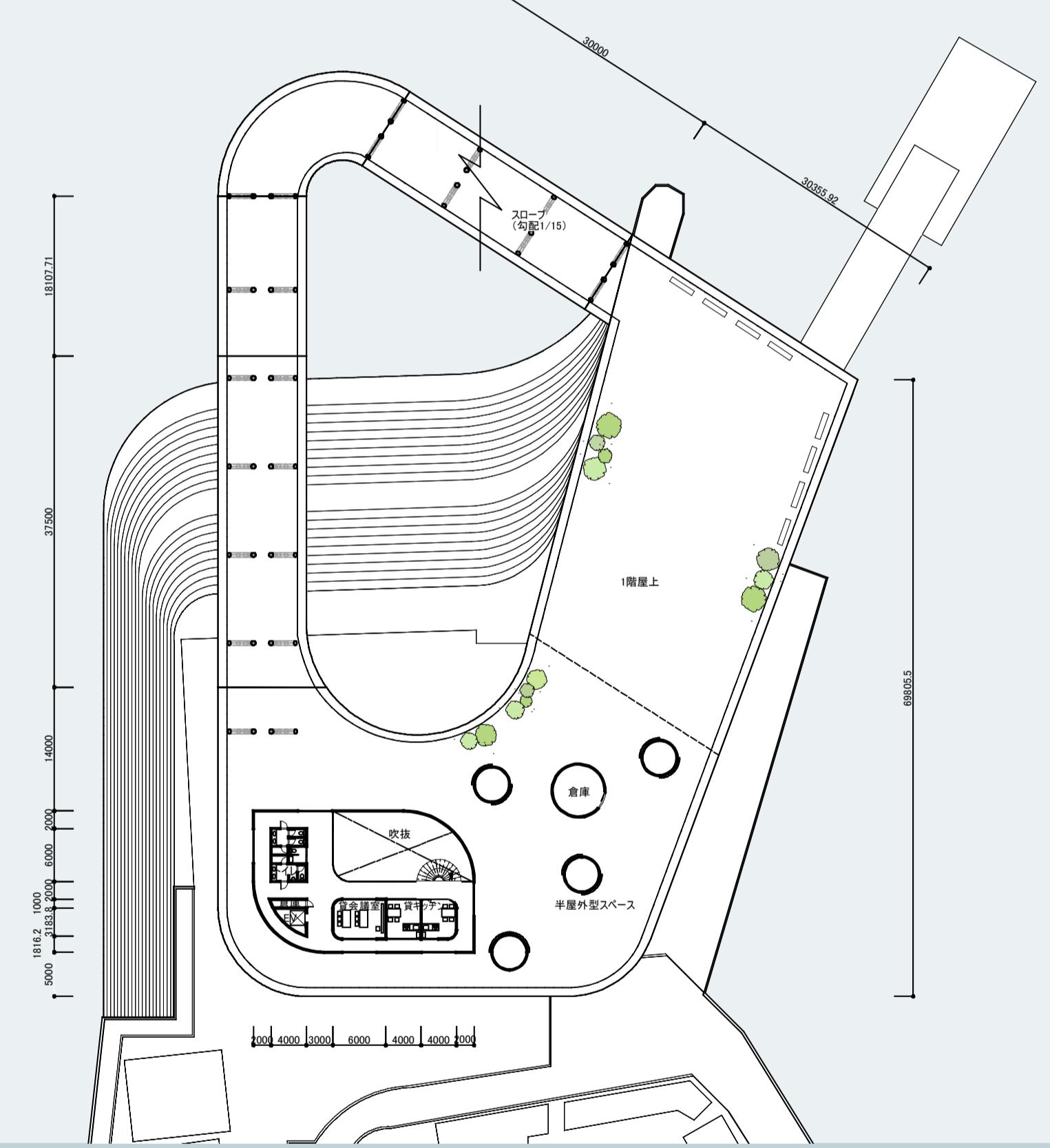


桟橋からスロープへ  
島の景観を360度見渡しながら  
スロープを歩いて行くと、2階や屋上までシームレスに上がることができる。  
出港する船をより近くから  
見送ることができる。

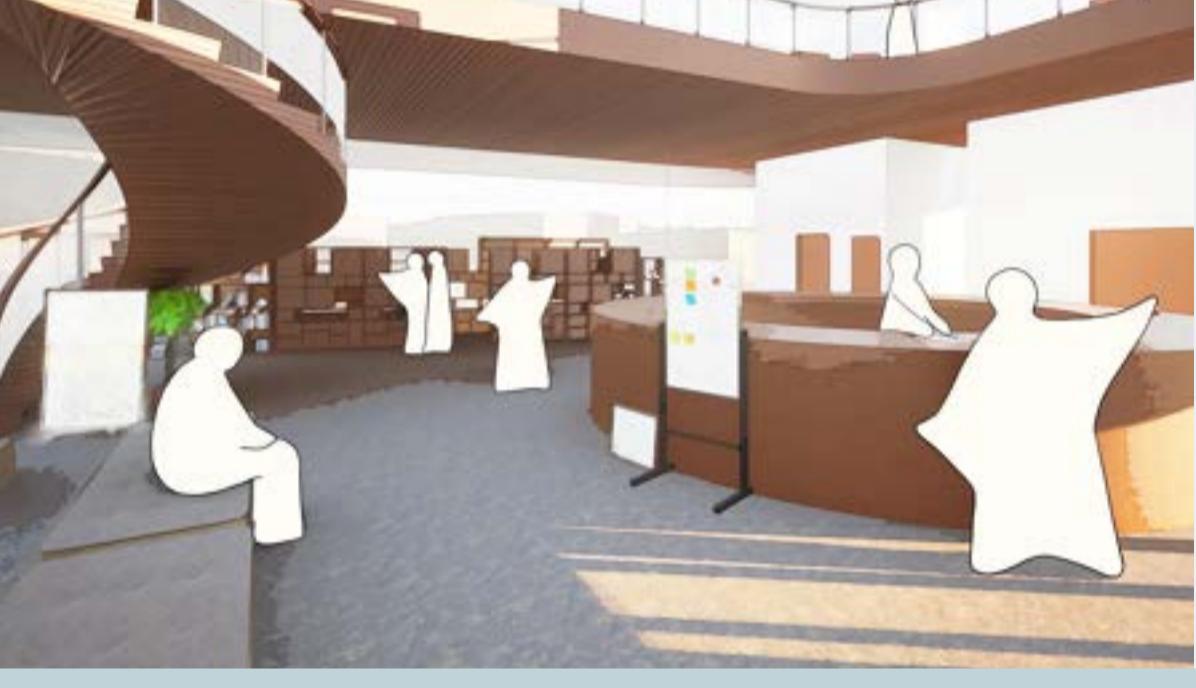
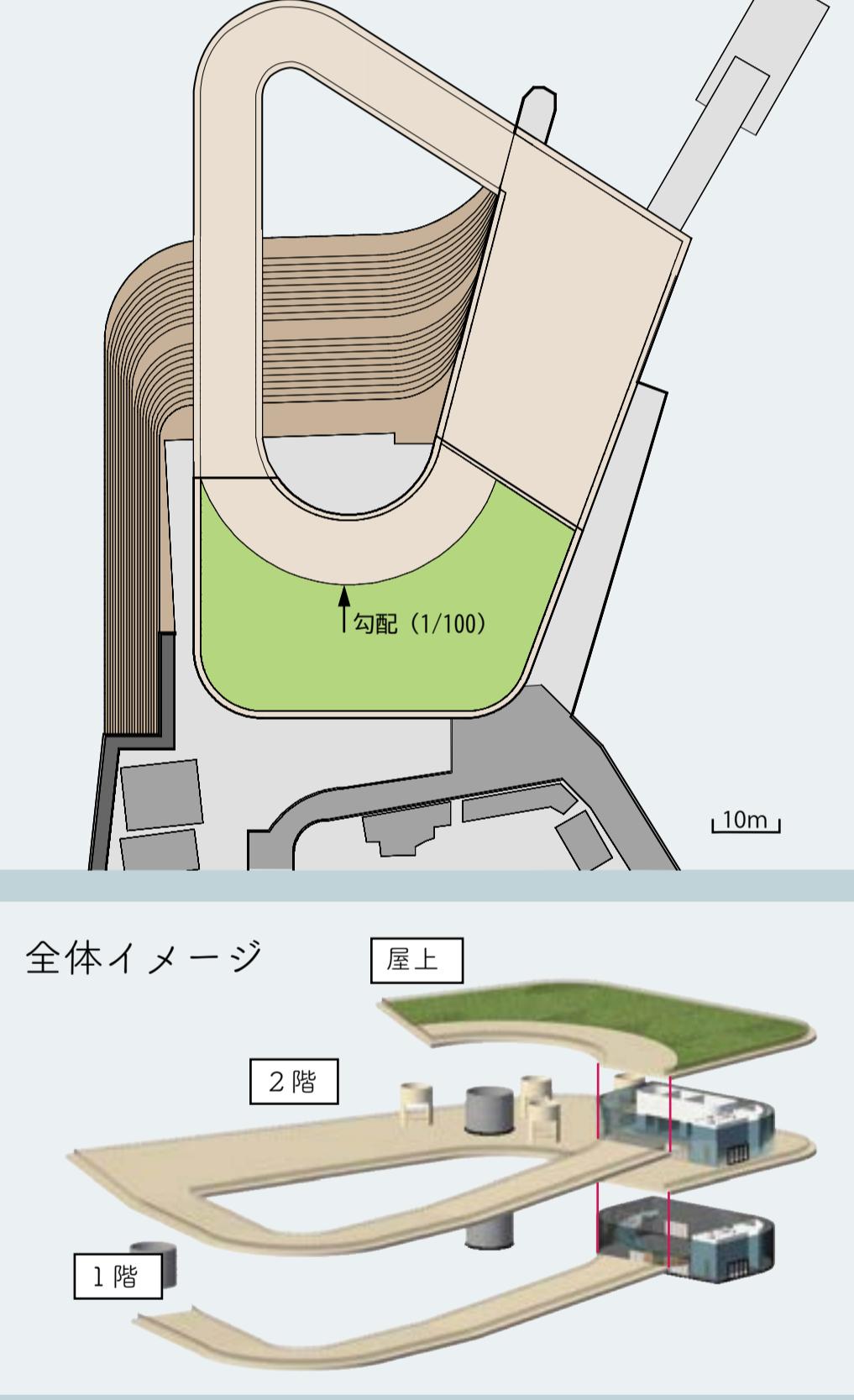
1階平面図 (S=1/600)



2階平面図 (S=1/600)



屋根伏図兼配置図



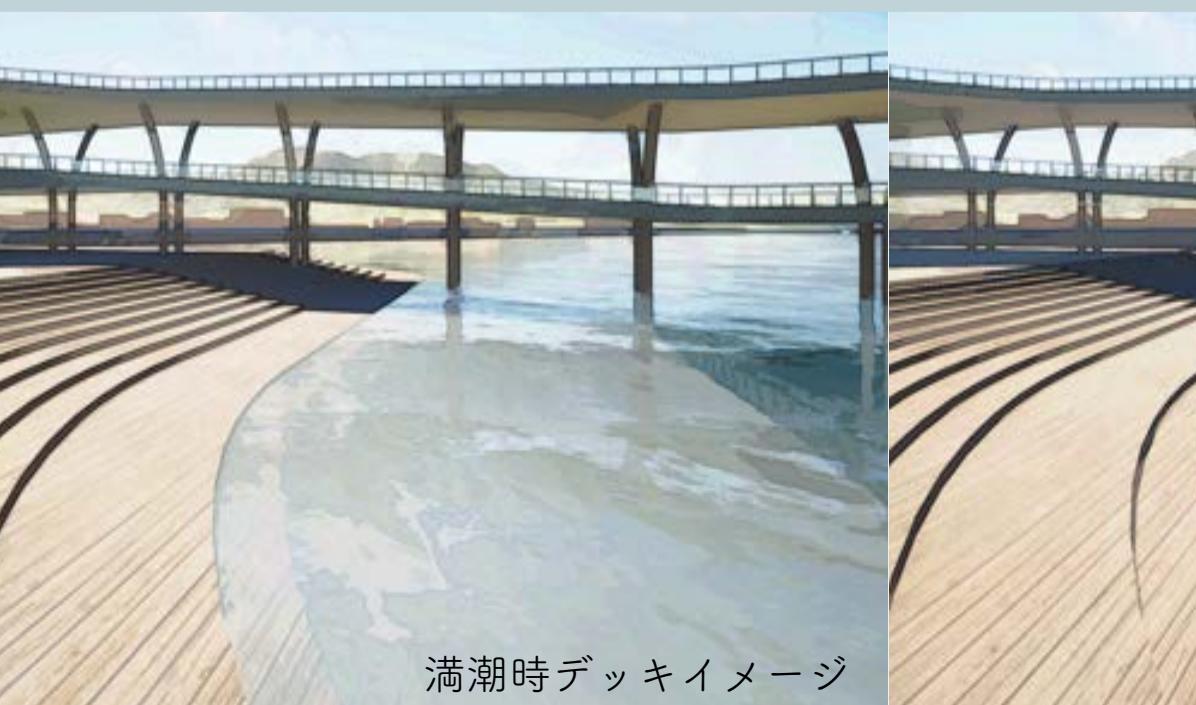
島内案内所 (1階屋内)  
券機や待合スペース、常設販売スペース、島内の情報共有や買い物など日常的な利用を目的とする“生活”に溶け込むエリアとする。  
駐車場沿い柱内部は備蓄倉庫として利用する。



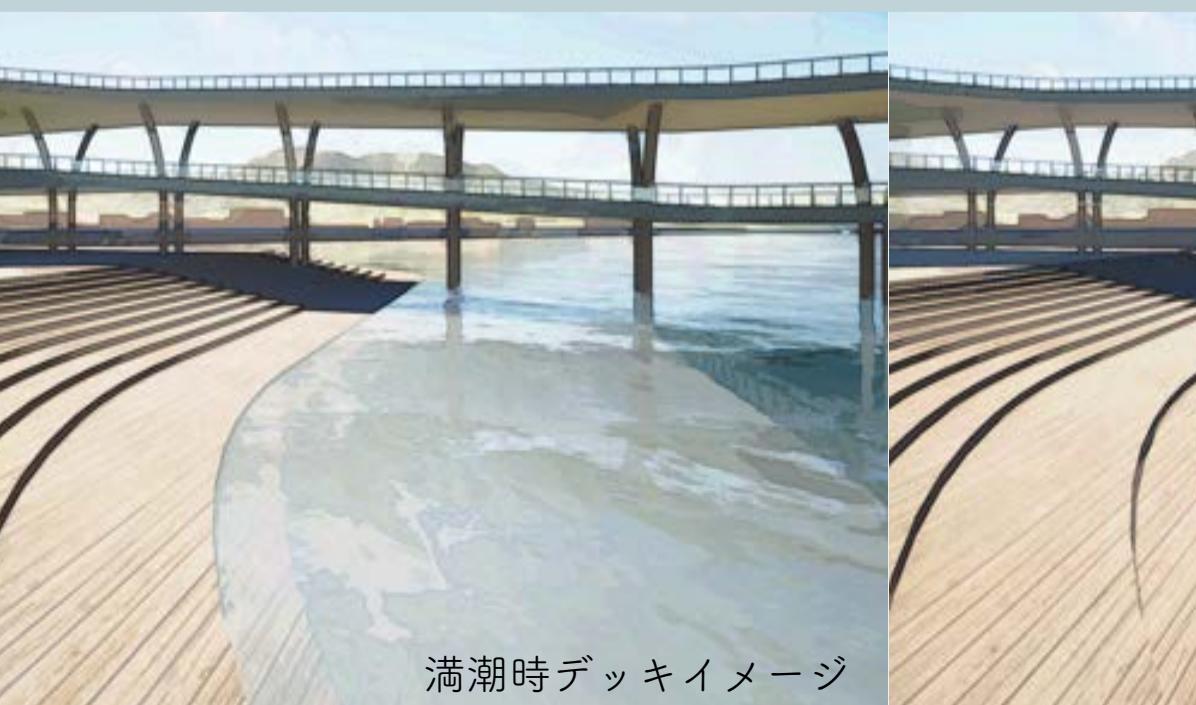
交流スペース (2階屋内)  
キッチンや会議室などを自由に利用できる交流スペースを配置。  
島を訪れる人々にとって行動の拠点となり、島民にとって日常の延長線上となる場を目指した。



マルシェエリア  
地産地消の促進や人と物の流れの増加を目指す。  
とともにマルシェを開催する仲間として幅広い層との関わりや地域の輪の広がりを感じするエリアとする。



満潮時デッキイメージ



干潮時デッキイメージ